



2021年3月期 決算短信(日本基準)(連結)

2021年5月7日

上場会社名 エヌアイシ・オートテック株式会社
 コード番号 5742 URL <http://www.nic-inc.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 西川浩司
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員管理統括 (氏名) 藤井透
 定時株主総会開催予定日 2021年6月26日 配当支払開始予定日 2021年6月28日
 有価証券報告書提出予定日 2021年6月29日
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

上場取引所 東

TEL 076-425-0738

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期の連結業績(2020年4月1日～2021年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期	6,649	0.5	218	13.4	220	24.7	136	35.8
2020年3月期	6,614	24.1	192	74.0	176	76.3	100	79.6

(注) 包括利益 2021年3月期 209百万円 (366.3%) 2020年3月期 44百万円 (89.5%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2021年3月期	25.02		2.9	2.8	3.3
2020年3月期	18.43		2.1	2.3	2.9

(参考) 持分法投資損益 2021年3月期 百万円 2020年3月期 百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期	8,138	4,634	56.9	850.64
2020年3月期	7,431	4,643	62.5	852.21

(参考) 自己資本 2021年3月期 4,634百万円 2020年3月期 4,643百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年3月期	1,140	163	188	1,461
2020年3月期	390	512	175	671

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額(合計)	配当性向(連結)	純資産配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2020年3月期		19.00		20.00	39.00	212	211.6	4.5
2021年3月期		20.00		21.00	41.00	223	163.9	4.8
2022年3月期(予想)		20.00		21.00	41.00		65.5	

(注) 当社2021年3月期の期末配当金は、1株あたり普通配当金21円といたしました。

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,700	30.8	530	143.1	524	137.4	341	150.1	62.58

注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 以外の会計方針の変更 : 無
 会計上の見積りの変更 : 無
 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期	5,500,000 株	2020年3月期	5,500,000 株
期末自己株式数	2021年3月期	51,446 株	2020年3月期	51,422 株
期中平均株式数	2021年3月期	5,448,561 株	2020年3月期	5,448,584 株

(参考) 個別業績の概要

2021年3月期の個別業績(2020年4月1日～2021年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期	6,620	0.8	261	10.6	266	17.3	182	21.5
2020年3月期	6,567	24.4	236	70.7	227	72.0	150	68.0

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期	33.46	
2020年3月期	27.54	

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円 銭	
2021年3月期	8,218		4,744		57.7		870.83	
2020年3月期	7,483		4,715		63.0		865.36	

(参考) 自己資本 2021年3月期 4,744百万円 2020年3月期 4,715百万円

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 連結貸借対照表	5
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	7
(3) 連結株主資本等変動計算書	9
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(会計方針の変更)	12
(会計上の見積りの変更)	12
(追加情報)	12
(セグメント情報等)	13
(1株当たり情報)	15
(重要な後発事象)	15
4. その他	16
(1) 生産、受注及び販売の状況	16
(2) 役員の異動	17

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、第1四半期より新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大及び長期化によって、景況感が一気に悪化したものの、昨年7月から9月の同感染拡大第2波以降、様々な政府施策等の効果によって回復の兆しが見受けられました。しかし、昨年10月から今年2月のCOVID-19感染拡大第3波の襲来、そして最近では感染力が強い変異株による同拡大第4波の襲来にて、予断を許さない状況が続いております。ただし、景況感としては製造業を中心に改善の動きが見受けられ、業種による格差が顕著に表れてきております。また、ワクチン接種が進みつつあるものの、世界的なCOVID-19感染拡大が収束となるような気配はなく、長期的な景気低迷が予想されることにより、企業の生産活動や設備投資は、総じて停滞状態となっており、先行きは不透明な状況が続いております。

このようなコロナ禍の状況においても、当社主力製品である「アルファフレームシステム」の販売は堅調に推移いたしました。しかし、停滞する設備投資の影響によって、FA装置の受注環境は極めて厳しく、低調な状況となりましたが、当社各部門は来期以降の案件に対して積極的な提案営業を展開し、受注の確保に注力いたしました。なお、社内においてはWith/Post COVID-19のニューノーマル時代への変革に対応するべく生産設備の見直しを推進し、業務効率を高める生産設備を積極的に導入するとともに、業務のデジタルライゼーションも推進し、既存設備の効率化及び対応能力を強化するための改良等にも取り組むなど、様々な施策を講じてまいりました。

また、昨年2月12日に発表した中期経営計画（2021年3月期から2023年3月期まで）において、昨今のコロナ禍の状況を鑑み、今年3月に業績目標の見直し（2021年3月5日付「中期経営計画の数値目標の見直しに関するお知らせ」にて公表）を行う一方、今後の業務効率化及び業容拡大に向けた施策として、2019年10月より稼働した愛知事業所に引き続き、富山県中新川郡立山町で新工場建設を今年3月に決定（2021年3月5日付「固定資産の取得（新工場建設）に関するお知らせ」にて公表）し、2022年4月稼働を目指しております。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は6,649百万円（前期比100.5%）、営業利益は218百万円（前期比113.4%）、経常利益は220百万円（前期比124.7%）、親会社株主に帰属する当期純利益は136百万円（前期比135.8%）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

[アルファフレーム部門]

アルファフレーム部門におきましては、一般顧客向けの販売では、2020年5月以降、COVID-19の影響で従来の営業活動に支障が出ていたものの、オンラインによる営業活動においてその効果をより発揮できる当社独自の「カクチャ™」及び「マーキングシステム™」を活用した作図案件や新規引合い案件は堅調に推移いたしました。また、大口顧客向け継続案件は、第2四半期以降より受注は順調に推移したことにより売上高が増加いたしました。

この結果、当部門の売上高は4,553百万円（前期比111.3%）となりました。

[装置部門]

装置部門におきましては、前期末に複数大型案件の納入が完了したことによって第2四半期までは装置製作工程が谷間となるものの、第3四半期以降より回復すると見込んでおりました。しかしながら、COVID-19の影響及び自動車部品関係では電動化など市場の変化に向けて設備投資に慎重な姿勢が見られ、来期への計画延期となるものも出てまいりました。

この結果、当部門の売上高は920百万円（前期比62.4%）となりました。

[商事部門]

商事部門におきましては、主要顧客各社ともCOVID-19の影響を受け、第2四半期までは生産調整が計られたことにより消耗品や治工具類の売上高は大きく減少しましたが、第3四半期以降は緩やかな回復基調となりました。また、機械設備関係については通期に渡り堅調な受注があり、前連結会計年度よりも売上高は大幅に増加いたしました。

この結果、当部門の売上高は1,175百万円（前期比112.2%）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(イ) 資産

当連結会計期間末における総資産は、前期末と比べ707百万円増加し、8,138百万円となりました。これは主に、現金及び預金が789百万円、仕掛品が91百万円、投資有価証券が100百万円それぞれ増加した一方で、受取手形及び売掛金が30百万円、商品および製品が34百万円、建物（純額）が95百万円、それぞれ減少したことなどによります。

(ロ) 負債

当連結会計期間末における負債は、前期末と比べ716百万円増加し、3,503百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が391百万円、未払法人税等が72百万円、1年以内返済を含む長期借入金が69百万円増加したことなどによります。

(ハ) 純資産

当連結会計期間末における純資産は、前期末と比べ8百万円減少し、4,634百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する当期純利益の計上136百万円があったものの、配当金の支払い220百万円があったことなどにより、利益剰余金が81万円減少したことや、その他有価証券評価差額金が65百万円増加したことなどによります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前期末と比べ789百万円増加し、1,461百万円となりました。

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期間の390百万円のキャッシュ・インに対し、1,140百万円のキャッシュ・インとなりました。これは税金等調整前当期純利益の計上及び減価償却費による資金の増加440百万円や仕入債務の増加による資金の増加418百万円、未払消費税等の増加による資金の増加187百万円などの資金の増加があった一方で、たな卸資産の増加による資金の減少21百万円や法人税等の支払いによる資金の減少32百万円があったことなどが主な要因であります。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期間の512百万円のキャッシュ・アウトに対し、163百万円のキャッシュ・アウトとなりました。これは主に生産設備等の有形固定資産の取得が143百万円あったことなどが主な要因であります。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期間の175百万円のキャッシュ・インに対し、188百万円のキャッシュ・アウトとなりました。これは長期借入金による収入が200百万円あった一方で、長期借入金の返済による支出131百万円や配当金の支払いによる支出217百万円があったことなどが主な要因であります。

(4) 今後の見通し

当社グループは、業容拡大を図るべく2021年3月期から2023年3月期までの3年間にわたる中期経営計画を、2020年2月12日に公表いたしました。2021年3月期では長期化するコロナ禍の状況によって、全般的に経済活動は低調に推移し、特に機械設備関係への投資に対しては、計画見直しや延期となる状況に至りました。このような状況を踏まえ、改めて当社の現状等について総合的に検討した結果、危機に強い継続性のある製造現場への構築が重要課題と捉え、業務効率化、生産性向上を図るために新工場建設を計画し、これに合わせて中期経営計画の数値目標についても見直しを図り、2021年3月5日に「固定資産の取得（新工場建設）に関するお知らせ」及び「中期経営計画の数値目標の見直しに関するお知らせ」を公表いたしました。

このように、当社同様、製造業各社では、今後のWith/Post COVID-19のニューノーマル時代への変革に対応すべく、危機に強い継続性のある製造現場を作ることを喫緊の課題として捉え、IoTやAI技術、並びに“5G+Edge”を活用した製造業のDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進を加速化しており、これら構築に対する投資が、今後、旺盛になっていくことが見込まれております。

これらの技術は今後の高速通信による革新の構築に欠かせないものであり、その根幹を担う半導体や電子部品の製造は、益々拡大しております。これら半導体や電子部品の製造装置においては、当社のアルファフレームシステムが多数利用されており、同時に当社装置部門のFA装置やクリーンブース等の需要も高まることが期待されております。

当社といたしましては、これら案件に対する受注活動に注力するとともに生産体制の強化を図り、業績の拡大に努めてまいります。

以上のように2022年3月期は、COVID-19の感染再拡大の懸念が残るものの、ワクチン接種の進展や各国の経済対策等によって、経済活動及び生産活動が回復基調になっていくと見込んでおり、当社グループは新たな中期経営計画の達成に向け、次期の連結業績見通しは、連結売上高8,700百万円（前期比130.8%）、営業利益530百万円（前期比243.1%）、経常利益524百万円（前期比237.4%）、親会社株主に帰属する当期純利益341百万円（前期比250.1%）を予想しております。

なお、COVID-19の今後の感染再拡大や収束の状況等によって、次期の連結業績見通しは大きく変動する可能性があります。業績予想に関し、修正の必要が生じた場合には、速やかに開示致します。

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性を考慮し、当面は日本基準にて連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、IFRS（国際財務報告基準）の適用につきましては、国内外の諸情勢を注視しつつ、適切に対応する体制の整備に努めてまいります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	671,945	1,461,114
受取手形及び売掛金	1,022,814	992,727
電子記録債権	1,152,399	1,128,961
商品及び製品	220,266	185,862
仕掛品	580,097	671,246
原材料及び貯蔵品	462,375	431,009
前渡金	—	626
その他	206,159	36,393
流動資産合計	4,316,058	4,907,941
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,070,892	3,079,956
減価償却累計額	△1,346,654	△1,451,057
建物及び構築物（純額）	1,724,237	1,628,899
機械装置及び運搬具	544,880	647,912
減価償却累計額	△370,890	△420,490
機械装置及び運搬具（純額）	173,989	227,421
土地	733,647	733,647
リース資産	96,671	179,235
減価償却累計額	△46,208	△61,145
リース資産（純額）	50,462	118,089
建設仮勘定	20,690	27,350
その他	323,252	336,581
減価償却累計額	△236,553	△249,343
その他（純額）	86,699	87,238
有形固定資産合計	2,789,727	2,822,647
無形固定資産		
その他	44,659	37,048
無形固定資産合計	44,659	37,048
投資その他の資産		
投資有価証券	164,826	265,726
繰延税金資産	80,479	62,576
その他	35,542	42,713
投資その他の資産合計	280,849	371,016
固定資産合計	3,115,236	3,230,712
資産合計	7,431,294	8,138,653

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当連結会計年度 (2021年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	458,878	850,827
電子記録債務	782,946	810,474
1年内返済予定の長期借入金	131,000	331,000
リース債務	29,629	49,977
未払法人税等	—	72,422
賞与引当金	63,446	69,278
製品保証引当金	1,745	1,119
その他	114,034	191,305
流動負債合計	1,581,681	2,376,405
固定負債		
長期借入金	934,000	803,000
リース債務	58,710	100,569
退職給付に係る負債	211,836	222,265
資産除去債務	1,583	1,583
固定負債合計	1,206,130	1,127,418
負債合計	2,787,812	3,503,824
純資産の部		
株主資本		
資本金	156,100	156,100
資本剰余金	145,636	145,636
利益剰余金	4,358,330	4,276,743
自己株式	△34,772	△34,791
株主資本合計	4,625,295	4,543,688
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,788	70,169
為替換算調整勘定	13,292	20,902
その他の包括利益累計額合計	18,081	91,072
非支配株主持分	104	68
純資産合計	4,643,482	4,634,829
負債純資産合計	7,431,294	8,138,653

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
売上高	6,614,552	6,649,521
売上原価	5,163,019	5,264,091
売上総利益	1,451,533	1,385,429
販売費及び一般管理費	1,259,259	1,167,420
営業利益	192,273	218,008
営業外収益		
受取配当金	9,757	3,750
仕入割引	4,403	4,350
その他	2,140	4,260
営業外収益合計	16,301	12,360
営業外費用		
支払利息	8,175	8,212
固定資産除却損	3,642	—
為替差損	14,401	1,121
投資有価証券評価損	4,945	—
その他	472	347
営業外費用合計	31,636	9,681
経常利益	176,938	220,688
税金等調整前当期純利益	176,938	220,688
法人税、住民税及び事業税	66,876	95,097
法人税等調整額	9,707	△10,721
法人税等合計	76,583	84,375
当期純利益	100,354	136,312
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△78	△42
親会社株主に帰属する当期純利益	100,433	136,355

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
当期純利益	100,354	136,312
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△50,785	65,380
為替換算調整勘定	△4,685	7,615
その他の包括利益合計	△55,470	72,996
包括利益	44,884	209,309
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	44,969	209,345
非支配株主に係る包括利益	△85	△36

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	156,100	145,608	4,490,730	△34,735	4,757,703
会計方針の変更による累積的影響額			△20,337		△20,337
会計方針の変更を反映した当期首残高	156,100	145,608	4,470,392	△34,735	4,737,365
当期変動額					
連結子会社の増資による持分の増減		27			27
剰余金の配当			△212,495		△212,495
親会社株主に帰属する当期純利益			100,433		100,433
自己株式の取得				△36	△36
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	—	27	△112,061	△36	△112,070
当期末残高	156,100	145,636	4,358,330	△34,772	4,625,295

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	55,574	17,959	73,534	259	4,831,497
会計方針の変更による累積的影響額			—	△29	△20,366
会計方針の変更を反映した当期首残高	55,574	17,959	73,534	230	4,811,130
当期変動額					
連結子会社の増資による持分の増減					27
剰余金の配当					△212,495
親会社株主に帰属する当期純利益					100,433
自己株式の取得					△36
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△50,785	△4,666	△55,452	△125	△55,577
当期変動額合計	△50,785	△4,666	△55,452	△125	△167,648
当期末残高	4,788	13,292	18,081	104	4,643,482

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	156,100	145,636	4,358,330	△34,772	4,625,295
会計方針の変更による累積的影響額					
会計方針の変更を反映した当期首残高					
当期変動額					
連結子会社の増資による持分の増減					
剰余金の配当			△217,942		△217,942
親会社株主に帰属する当期純利益			136,355		136,355
自己株式の取得				△19	△19
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	△81,587	△19	△81,606
当期末残高	156,100	145,636	4,276,743	△34,791	4,543,688

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	4,788	13,292	18,081	104	4,643,482
会計方針の変更による累積的影響額					
会計方針の変更を反映した当期首残高					
当期変動額					
連結子会社の増資による持分の増減					
剰余金の配当					△217,942
親会社株主に帰属する当期純利益					136,355
自己株式の取得					△19
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	65,380	7,609	72,990	△36	72,953
当期変動額合計	65,380	7,609	72,990	△36	△8,652
当期末残高	70,169	20,902	91,072	68	4,634,829

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	176,938	220,688
減価償却費	190,080	219,636
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△115	-
受取利息及び受取配当金	△9,783	△3,767
支払利息及び手形売却損	8,175	8,212
売上債権の増減額 (△は増加)	1,255,721	54,691
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△3,099	△21,308
仕入債務の増減額 (△は減少)	△526,299	418,654
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△19,820	5,832
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	7,211	10,429
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	△3,054	△626
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△244,068	187,810
為替差損益 (△は益)	△34	1,184
固定資産除却損	3,642	-
投資有価証券評価損益 (△は益)	4,945	-
その他	△217,066	11,992
小計	623,373	1,113,428
利息及び配当金の受取額	5,554	1,675
利息の支払額	△8,175	△8,212
法人税等の支払額	△230,364	△32,178
法人税等の還付額	-	66,149
営業活動によるキャッシュ・フロー	390,388	1,140,862
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△507,082	△143,773
無形固定資産の取得による支出	△6,265	△6,047
投資有価証券の取得による支出	△4,800	△4,800
投資有価証券の売却による収入	5,918	-
その他	△174	△8,498
投資活動によるキャッシュ・フロー	△512,404	△163,119
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	550,000	200,000
長期借入金の返済による支出	△131,000	△131,000
自己株式の取得による支出	△36	△19
配当金の支払額	△212,334	△217,668
その他	△31,198	△40,020
財務活動によるキャッシュ・フロー	175,429	△188,708
現金及び現金同等物に係る換算差額	700	134
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	54,114	789,168
現金及び現金同等物の期首残高	617,831	671,945
現金及び現金同等物の期末残高	671,945	1,461,114

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大により、当連結会計年度において、当社グループでは一時的な需要低下があったものの、ワクチン接種が進むこと等により事態が収束し、経済活動が再開することで翌連結会計年度以降は受注状況が回復していくと仮定しており、繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損等の会計上の見積りについては、当該仮定を反映しております。

なお、新型コロナウイルスによる経済活動への影響は不確実性が高いため、先述の仮定に状況変化が生じた場合は当社の財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち、分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、「アルファフレーム部門」・「装置部門」・「商事部門」の3部門体制で事業展開を行っており、当該3事業部門を報告セグメントとしております。

「アルファフレーム部門」は、機械・装置の基礎フレームなど機械要素となるアルミ製構造部材のアルファフレーム及びフレーム同士を結合するブラケット等の補助部品システムからなる「アルファフレームシステム」の開発・設計・製造・販売を行っております。

「装置部門」は、「アルファフレームシステム」を使用した自動・省力化装置及びクリーンブースやその機器・システム、その他マシンカバーやマシンベース等の工業製品の開発・設計・製造・販売を行っております。

「商事部門」は、上記2部門の「メーカー機能」を活用した工場等の製造設備導入提案営業及び、工業用砥石・鏝・工具・ツール等の工業生産財の販売を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。また、報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	連結財務諸表 計上額
	アルファ フレーム部門	装置部門	商事部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,093,129	1,474,339	1,047,083	6,614,552	—	6,614,552
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,093,129	1,474,339	1,047,083	6,614,552	—	6,614,552
セグメント利益	67,315	79,694	45,263	192,273	—	192,273
セグメント資産	2,972,677	2,673,571	472,097	6,118,347	1,312,946	7,431,294
その他の項目						
減価償却費	116,274	70,044	3,761	190,080	—	190,080
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	368,742	155,136	—	523,878	4,327	528,206

(注) 1. セグメント損益は、連結財務諸表の営業利益と対応しております。

2. セグメント資産における調整額は、報告セグメントに帰属しない全社資産であります。

3. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額における調整額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に係る金額であります。

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	連結財務諸表 計上額
	アルファ フレーム部門	装置部門	商事部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,553,939	920,539	1,175,042	6,649,521	—	6,649,521
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,553,939	920,539	1,175,042	6,649,521	—	6,649,521
セグメント利益又は損失(△)	168,091	△27,568	77,485	218,008	—	218,008
セグメント資産	3,224,030	2,364,846	529,570	6,118,448	2,020,205	8,138,653
その他の項目						
減価償却費	141,113	75,069	3,453	219,636	—	219,636
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	203,485	34,834	—	238,319	6,896	245,215

(注) 1. セグメント損益は、連結財務諸表の営業利益と対応しております。

2. セグメント資産における調整額は、報告セグメントに帰属しない全社資産であります。

3. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額における調整額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に係る金額であります。

【関連情報】

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
キャノン株式会社	1,812,414	アルファフレーム部門及び装置部門

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

(単位：千円)

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
キャノン株式会社	2,446,006	アルファフレーム部門及び装置部門

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	当連結会計年度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)
1株当たり純資産額	852円21銭	850円64銭
1株当たり当期純利益金額	18円43銭	25円02銭
(1株当たり当期純利益金額算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	100,433	136,355
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益金額(千円)	100,433	136,355
普通株式の期中平均株式数(株)	5,448,584	5,448,561

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. その他

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 生産実績及び商品仕入実績

当連結会計年度の生産実績及び商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

・ 生産実績

セグメント名称	生産高 (千円)	前期比 (%)
アルファフレーム部門	4,567,930	111.2
装置部門	920,539	62.4
合計	5,488,470	98.3

(注) 上記の金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

・ 商品仕入実績

セグメント名称	品目	仕入高 (千円)	前期比 (%)
商事部門	工業用砥石	95,801	79.0
	機械設備	600,429	152.6
	工具・ツール・油脂類	309,639	83.6
合計		1,005,871	113.7

(注) 上記の金額は仕入価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

② 受注実績

当連結会計年度の受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	受注高 (千円)	前期比 (%)	受注残高(千円)	前期比 (%)
アルファフレーム部門	4,764,790	113.7	1,388,139	116.5
装置部門	812,055	58.5	198,082	64.6
商事部門	1,438,745	124.2	631,601	171.7
合計	7,015,591	104.1	2,217,823	118.9

(注) 上記の金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

③ 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント名称	販売高 (千円)	前期比 (%)
アルファフレーム部門	4,553,939	111.3
装置部門	920,539	62.4
商事部門	1,175,042	112.2
合計	6,649,521	100.5

(注) 1. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高 (千円)	割合 (%)	販売高 (千円)	割合 (%)
キャノン株式会社	1,812,414	27.4	2,446,006	36.8

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 役員の変動

本年6月26日開催予定の定時株主総会に付議する取締役の各候補者は次のとおりです。

① 任期満了により再任予定の取締役候補者

西川 浩司	(再任 現 代表取締役会長)
西川 武	(再任 現 取締役社長)
西尾 謙夫	(再任 現 専務取締役)
野村 良一	(再任 現 専務取締役)
土山 邦夫	(再任 現 常務取締役)

② 新任取締役候補者

藤井 透	(新任 現 上席執行役員)
------	---------------

③ 就任予定日

2021年6月26日

(注) 役員の変動につきましては、本日(2021年5月7日)別途公表の「役員人事の内定に関するお知らせ」をご参照願います。